

第5回教育研究評議会議事要旨

日 時 平成25年7月10日(水) 13:30~15:10

場 所 柏原キャンパス事務局棟 大会議室

出席者 長尾, 栗林, 若井, 越桐, 成山, 野田, 横井, 石田, 高橋, 田中, 向井, 小山, 伊藤, 入口, 鈴木, 久田, 安部, 辻岡, 土井, 山川, 林, 吉田(22名)

陪 席 野口監事

傍聴者 田中ひかる准教授

開会に先立ち、長尾学長から平成25年度第4回教育研究評議会の記録確認が行われた。引き続き、議事の進め方については開催通知の順番に進める旨の発言がなされ、傍聴申請があった1名に対して議題(1)以外の傍聴が認められた。

議題(1) 平成26年度教員採用計画について

長尾学長から資料に基づき説明が行われ、原案どおり了承された。

議題(2) 平成26年度のカリキュラムに関する基本方針について

野田副学長から資料に基づき説明が行われ、質疑応答の結果、原案どおり了承された。

【主な質疑】

・基本的事項が第一部、第二部、大学院で分けて記載されているが、統一的な視点で取り組めばよいのではないかと。分けて記載した意図は何かとの質疑に対して、第二部の基本方針について、平成22年度にカリキュラム改正を行い、完成まで第一部は4年、第二部は5年かかり、第二部においてはあと1年かかることから、必要最小限とした。また、大学院においては、平成19年度のカリキュラム改正の検証を行った結果、実践的科目の充実を進める必要があることが分かり、基本方針にも文言として盛り込むこととしたとの答弁が野田副学長からなされた。

・実践的科目の充実を図るとは、新規科目を開設するということか、それとも既存の実践的科目の内容の充実を図るとのことかとの質疑に対して、既存の実践的科目の内容の充実を図ることであるとの答弁が野田副学長よりなされた。

報告事項(1) 平成26年度大学院教育学研究科学生募集要項について

横井副学長から資料に基づき報告がなされた。

報告事項(2) ミッションの再定義について

長尾学長及び越桐理事から資料に基づき報告がなされた。

【主な質疑】

・本学学生は他府県から進学してきた者も多く、また、他府県の教育委員会からの期待も高いことから、広域(ブロック)拠点型を目指す大学に分類されたのは当然であると考えられる。西日本全体に貢献していることをもっとアピールしてもよいのではないかと意見があった。

・教員就職率について、現役で採用された学生の数値はこのとおりに思うが、3年以内に教員になった者を合わせるともう少し高くなるのではないかと。卒業生への追跡調査を実施するべきであるとの意見に対して、これまで本学では過年度卒業生の就職に関するデータは持っていなかったが、文部科学省より調査するよう要請があり、各地区教育委員会の協力の下、調査を行った。その点も含めて、実現可能な数値を記載したとの答弁が長尾学長よりなされた。

・教員就職率について、「60%を確保する。」とするとあるが、本学学生のポテンシャルを考えれば、教員就職率を上げることも可能であると思うので、もう少し強気に出てはどうかとの意見に対して、そのような意見が出ることは喜ばしいが、実現可能か精査する必要がある。数値は今後検討するとの答弁が長尾学長よりなされた。

・文部科学省から通知された「教員養成分野のミッションの記述例とその解説」及び「国立大学の機能強化に向けての考え方」について、これらの通知にはどの程度の拘束力があるのかとの質疑に対して、拘束力については現段階では不透明である。各大学のヒアリングが終わり次第、公表する可能性があるとの答弁が長尾学長よりなされた。